



クリパック・ブラックS クリパック・ブラックH 〈エアスプレー用〉 〈ハケ塗り用〉

クリパックの特徴

クリパックは、簡単な施工で優れた耐候性により、長期間屋外暴露（屋外2年、屋内4年）に耐え、製品を保護・防錆します。
素手で簡単にはがせ、剥離後の清掃、脱脂は不要です。
剥離後の被膜は一般ゴミとして廃棄できます。



クリパックの用途

鋼材製品、表面平滑な石及びコンクリート、溶剤の影響を受けないプラスチック類及び塗装面の保護・防錆をします。



クリパック・ブラック S〈エアスプレー用〉/H〈ハケ塗り用〉

●塗装の一般仕様と塗装の要領

●推奨する膜厚

屋外放置する場合、クリパック塗装後、乾燥した状態で、 400μ (0.4mm) 以上。適性膜厚のご決定に際しては、使用環境を考慮の上、剥離テストなどを実施した後、ご決定されることを推奨いたします。

塗布量の目安

平面部の屋内放置 : 1.1kg / m ²	開先部 : 1.3kg / m ²
ボルト等の凹凸部 : 1.5kg / m ²	
平面部の屋外放置 : 1.2kg / m ²	
エアレス塗装の場合 : 1.5~1.7kg / m ²	

十分な塗布量がない場合、はがれにくくなることがありますので、塗布量をお守りください。

●塗装の前に（下地処理）

塗装を始める前に、部材表面の錆・ゴミ・油・水分などは、洗浄剤・ウエス・ワイヤーブラシ・グラインダーあるいはショットブラストなどで除去し、できる限りの素地調整をしてください。



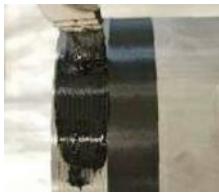
右図の様に、開缶した時は半固形状態です。電動攪拌機により攪拌し、塗装しやすい粘度に調整してご使用ください。



●塗装方法

●ハケ塗り

小さく複雑な部分の塗装に適した方法です。膜厚を均一に仕上げるため、ペンキハケの毛先に余り力を加えないで、軽く伸ばす様に塗ってください。



●スプレー塗装

広い面積の塗装に適した塗装方法です。電動攪拌機により1~2分攪拌してエアレススプレー機にセットしてください。エアレススプレー機は、下記仕様のものをご使用ください。

圧縮比 / 30~45 : 1
一次供給エアー圧 / 5~7kg / cm²



塗装環境条件

湿度 : 80% 以下 外気温度 : 5°C 以上 被着体温度 : 50°C 以下
被着体の温度が高いと被膜が発泡する恐れがあります。この様な時は、できるだけ作業はさせてください。

塗り重ね回数

ハケ塗り : 2~3回 スプレー塗装 : 2回
但し膜厚ゲージを用い膜厚管理を行なながら、塗布回数を決めてください。

塗り重ね間隔

ハケ塗り : 20~30分 スプレー塗装 : 10~15分
但し温度・湿度をはじめ気候の状態により、多少の変化があります。

乾燥時間

指触乾燥 (常温)

ハケ塗り : 10~15分 スプレー塗装 : 5~10分

完全乾燥 (常温) 24時間

但し温度・湿度をはじめ気候の状態により、多少の変化があります。

希釈および洗浄

ハケ塗り、スプレー塗装ともに希釈の必要はありません。原液を攪拌し、そのままご使用ください。洗浄は、専用シンナーK-1をご使用ください。



●剥離・補修の要領

●剥離は簡単

クリパックは、特別な治具や剥離剤・洗浄剤など必要とせず、素手で簡単に剥離することができます。

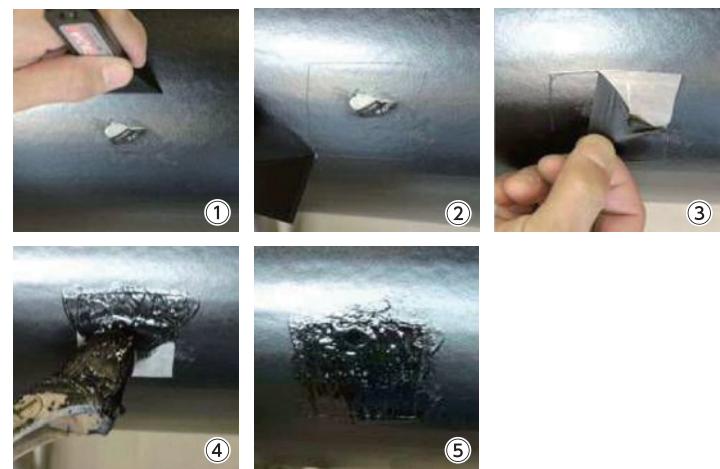
●全体剥離は

原則として、右図のように180°剥離の方法が望ましく、きれいに剥離できます。

●部分剥離・補修について

クリパック塗装面の一部を任意の点で剥離する場合は、プラスチックカッターで切れ目を入れ、端面より剥離してください。なお、金属製のカッターナイフ・カワスキなどでは母材にキズをつける恐れがあるので、絶対に使用しないでください。部分剥離後、再び屋外に長時間放置する場合は同質のクリパックをオーバーラップさせ、所定の膜厚が得られる様に再塗装してください。

(万一損傷を受けた場合は、損傷部分周囲の浮き上がっている被膜を部分剥離し、エチルアルコールを含ませた布でよく洗浄してから再塗装してください)



●剥離が困難な場合

万一膜厚が不足していた場合、表面のホコリなどをウェスで除去し、規定の膜厚になる様に塗り重ねてください。あるいはなんらかの原因で被膜が変質・劣化していくと剥離が困難になった場合には、テクラクロロチレン又はトルエンを使用してふき取ってください。

また、剥離面が研磨可能な材質や箇所ならば、研磨材=ファインブライツシリーズが最適です。目づまりせず、すばやく被膜を除去することができます。

●その他、取り扱い上の注意

貯蔵安定期間は約6ヶ月

直接日光の当たらない、通気性が良く温度・湿度の安定した冷暗所で貯蔵してください。

使用材の保管

開封後に余りが出た場合は、再びフタをして保管してください。万一封を開いた場合でも、短期間ならば上層の乾燥被膜がフタのかわりになりますので、その部分を除去すれば残りを使用できます。

被膜の廃棄

被膜の廃棄は、細かく(約30cm程度)切断して産業廃棄処理してください。

作業条件

火気の近くでの使用は、絶対にさけてください。また、作業が室内になる場合は、換気を充分に行い、必要に応じてフィルターマスクをご使用ください。